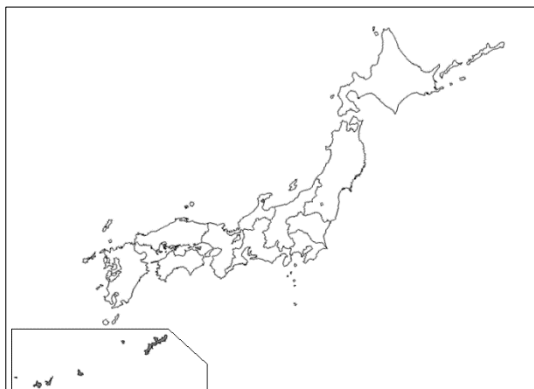


(12) 沖 縄



沖縄地域では、景気は新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しの動きに弱さがみられる。

- ・ 観光はこのところ弱含んでいる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

前回からの主要変更点

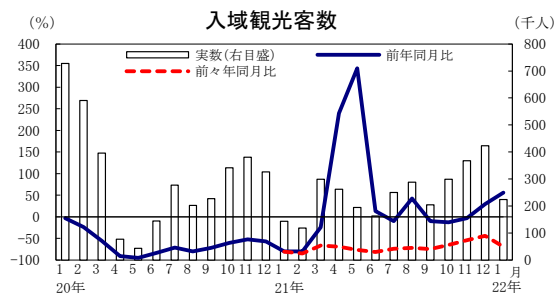
	前回（令和3年12月）	今回（令和4年3月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しの動きに弱さがみられる	↓
観光	持ち直しの動きがみられる	このところ弱含んでいる	↓
個人消費	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	このところ持ち直しに足踏みがみられる	↓
雇用	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる	↑

1. 観光の動向

観光はこのところ弱含んでいる。

10-12月期の入域観光客数は、前年同期比4.0%増（2019年同期比54.7%減）となった。国内客は4.0%増となり、外国客は入国制限措置の継続等により皆減であった。月別で見ると、10月は前年同月比12.4%減（2019年同月比64.9%減）、11月は同3.4%減（同54.0%減）、12月は同29.8%増（同43.9%減）となった。1月は同56.0%増（同70.2%減）となり、12月に比べて2019年同月比のマイナス幅が拡大した。

10-12月期のホテル稼働率は、前年同期差5.7%pt減となった。



入域観光客数等の動向

	2021年			2022年
	4-6月	7-9月	10-12月	1月
入域観光客数 (千人)	621	744	1,091	225
(前年比、%)	133.9	5.1	4.0	56.0
ホテル稼働率 (%)	22.3	25.2	40.5	—
(前年差、%pt)	14.1	▲2.1	▲5.7	—

- (備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。
 2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。
 3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

2. 個人消費の動向

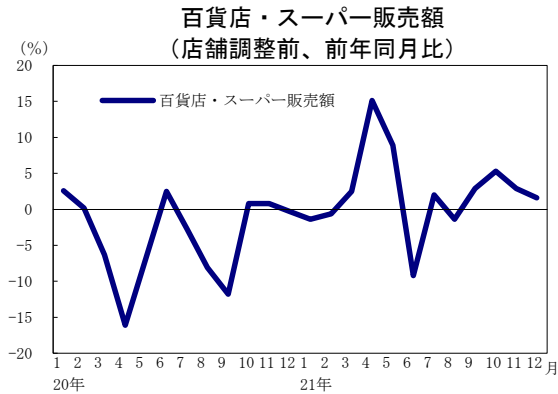
個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。

(1) 地域別消費総合指数（RDEI（消費））

10-12月期は前期比0.5%減となった。月別にみると、10月は前月比2.8%増、11月は同0.4%増、12月は同1.2%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比3.1%増となった。月別にみると、10月は前年同月比5.3%増、11月は同2.9%増、12月は同1.6%増となった。



	2021年10-12月	2021年10月	11月	12月
RDEI（消費*1）	▲0.5	2.8	0.4	1.2
百貨店・スーパー(*2)	3.1	5.3	2.9	1.6
コンビニ(*2)	4.5	3.7	0.7	8.9
乗用車(*3)	▲15.9	▲29.1	▲11.4	▲5.3
(季節調整値)(*3)	20.0	28.4	18.8	1.4

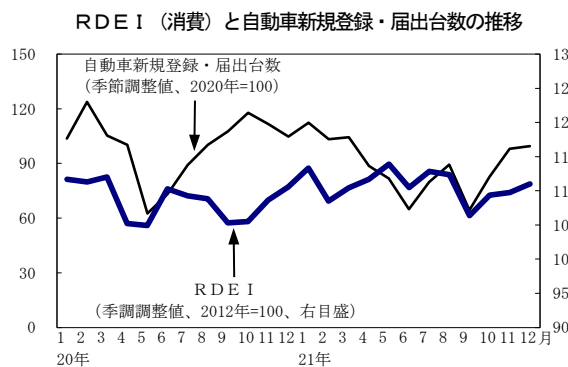
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは経済産業省調べ（店舗調整前）。

コンビニは日本銀行那覇支店調べ。

3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))

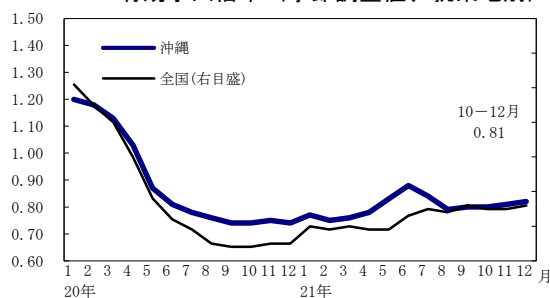


3. 雇用情勢

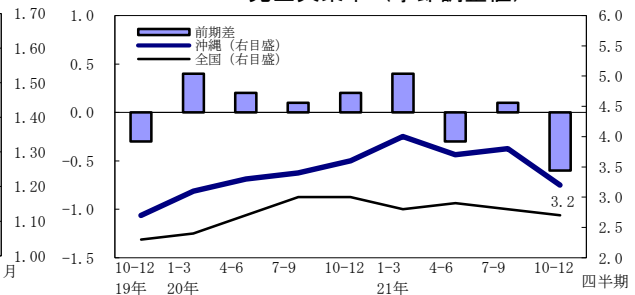
雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる。

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前期を下回っている。

(倍) 有効求人倍率（季節調整値、就業地別）



(ポイント) 完全失業率（季節調整値） (%)



(備考) 沖縄県「労働力調査」の月次値を、内閣府にて四半期平均化。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年1月調査）景気判断理由の概要

12. 沖縄

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由		
			現状	先行き	
現状	家計動向 関連	□	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県では1月9日よりまん延防止等重点措置が適用されて、買上点数が少し増えて来客数が少し減る状況にあり、巣籠り需要が実感できる（スーパー）。 年末年始で前々年の70%ぐらいまで入客数が戻ってきていたが、新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数の急増とまん延防止等重点措置の適用により、今月は一気に95%減少で休業に入っている（その他飲食 [居酒屋]）。 毎年1～3月の期間、賃貸物件の動きが活発になる時期だが、まん延防止等重点措置に伴う外出自粛の最中で、問合せや物件の見学者数も例年に比較し減少傾向にある（住宅販売会社）。 ホテルの10月の販売室数が前年比72%減少とマイナスなのに対して、1月の販売室数は前年比39%増加とプラスに転じている（観光型ホテル）。 来客数に変動はなく、必需品を買いに来る近隣の人や工事関係者が多い（コンビニ）。 		
		×			
		▲			
	企業動向 関連	◎	<ul style="list-style-type: none"> 公共工事、民間工事の見積依頼に大きな変化はなく、受注量、生産量も横ばいの状況である（窯業土石業）。 所得増を伴わない物価の上昇感があり、消費動向も先細るとの懸念がある（会計事務所）。 まん延防止等重点措置の沖縄県への適用で観光、ホテル、及び給食関係への納品は減少しているが、それ以外への納品は増加している（食料品製造業）。 新型コロナウイルス新規感染者数の急拡大によるまん延防止等重点措置の影響で本土との行き来が制限され、商談に遅れが生じている。また、飲食等の発注が減少傾向にある。3か月前の制限のない状況と比べると景気は悪くなっている（輸送業）。 		
		○			
		×			
	雇用 関連	▲	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスオミクロン株の流行による求人数の取消しなどはなかったが、前年より求人数の増加率が低下している印象がある（職業安定所）。 求人案件は増加傾向にあるが、求職者の動きが鈍く人手不足感是否めない（人材派遣会社）。 		
		□			
	その他の特徴 コメント			<ul style="list-style-type: none"> □：求人数について著しく減ってはおらず、福祉関係などの求人数は一定数集まっている（学校 [大学]）。 ×：まん延防止等重点措置の適用後から予約がストップし、3月までキャンセルされている（観光名所）。 	
	先行き	家計動向 関連	○	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染拡大がピークに達し減少すれば今よりは良くなるとみている（衣料品専門店）。 まん延防止等重点措置の適用後、予約のキャンセルが相次ぎ2019年と比べ半分まで落ち込んでいる。全国的に新型コロナウイルスオミクロン株の流行が本格的になっており近々での需要回復は望めない（その他サービス [レンタカー]）。 ここ1か月くらいで新型コロナウイルスの第6波が来て、本当に街から歩行者も減り、商売は大変危機的状況である。早めの新型コロナウイルスの終息を祈るのみである（商店街）。 	
□					
×					
企業動向 関連		□	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスオミクロン株の影響で販促活動を自粛する傾向はあるものの、大きく減少するまでには至っておらず、当面の間は現状のまま推移するものとみている（広告代理店）。 数か月前から商談を進めている客が具体的に動き出している（建設業）。 		
		○			
雇用 関連		○	<ul style="list-style-type: none"> 新年度を迎え新たな採用計画の下で、募集活動を行う企業が増えてくる（学校 [専門学校]）。 		
その他の特徴 コメント			<ul style="list-style-type: none"> ○：新型コロナウイルスに対する免疫もできてくると考えられ、付き合い方も分かってくるのではないかと（一般小売店 [酒]）。 ○：まん延防止等重点措置さえ終われば、多少復活するのではないかと（その他専門店 [陶器]）。 		

(D I) 現状・先行き判断D I（沖縄）の推移（季節調整値）

